中学校第２学年社会科学習指導案

期　日：令和３年 11 月 12 日
時　間：第５校時
対　象：第２学年Ｃ組 31 名
学校名：清心中学校
授業者：内藤 良祐

１　単元（題材）名

「絵画から探るルネサンス　　歴史と美の関係性」

２　単元（題材）の目標

(1) キリスト教会の成立史を概観し、中世ヨーロッパにおけるキリスト教の影響力の実態を理解できる。
(2) 十字軍と三大発明がもたらした社会構造の変化とギリシャ・ローマ文化の流入の内容を理解できる。
(3) クロムブックの地図機能やドキュメント機能を学習に活用できる。
(4) 古代ローマ、中世、ルネサンスの芸術作品を鑑賞し、その特徴や画風の変化の原因を、歴史の変化と結びつけて思考できる。

３　単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ポスト=ルネサンス期におけるキリスト教会の位置づけを理解し、中世ヨーロッパにおけるキリスト教文化の影響力の内容を理解している。 ・ルネサンス前後で美術作品における「美」の表現方法が変化したことを資料から適切に読み取ることができる。 ・クロムブックの地図機能を適切に使用できる。	・商業ギルドの発達の背景にある交易の発展に注目し、経済的実権を握る層が文化の担い手となることに気づくことができる。 ・ルネサンス前後の美術作品を鑑賞し、「美」について自分の言葉で表現し、社会の変化と美的観念の変化を結び付けることができる。	・個人活動ならびにグループワークにおいて、与えられた問いに真摯に向きあって取り組んでいる。 ・美的観念の変化と歴史のダイナミズムの関係性に対する関心を持って取り組むことができる。

４　単元の設定

(1)単元（題材）観

本単元は「キリスト教世界とルネサンス」に焦点をあてる。この分野は中学歴史のなかで文化論として補論的に位置づけられがちな世界史の範囲であり、学習指導要領においても日本史における「ヨーロッパ人来航の背景」として触れられるにとどまっている。しかし、戦乱の世の中から安定した社会へと変化していく近世の日本を理解するには、ルネサンスから大航海時代を迎えた世界のダイナミズムの中で、日本の歴史をとらえていくことが不可欠である。それは日本の歴史や文化が、世界とのかかわりの中で育まれてきたことを理解することでもある。そしてそのことは、学習指導要領の歴史的分野の目標（1）（３）における「我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせる」「歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ，我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせる」などを達成させることにつながる。

(2)指導観

「深い学び」の実現のために、芸術作品という生徒にとって視覚的に興味を引かれるテーマを取り上げ、資料活用の実践につなげる。西洋における中世から近世への劇的な変化を歴史的背景としながら、芸術作品における「美の要素」について探求する。そして、社会の変化と美的要素の変化が相関関係にあることについて、生徒自身が考えを深めていけることを目指す。

(3)生徒観

中２学年は全体として社会科への苦手意識を持つ生徒が多い。C 組は授業への積極性がよく見られ、団結力があって活発な雰囲気のよいクラスであるが、一方的な知識注入型の授業は苦手とする。また、発言力のある生徒が雰囲気を支配しやすく、全ての生徒が平等に自分の考えを述べる場をつくるように配慮する必要がある。

５　単元（題材）の指導計画と評価計画（全３時間扱い）

時	★目標　○学習内容　・学習活動	■評価規準（評価方法）
第1時	★キリスト教の勃興による中世ヨーロッパの始まりを理解する。	
	○なぜキリスト教がヨーロッパに広まった？ ・キリスト教の始まりについて復習する。 ・クロムブックの地図機能を使って古代ローマの版図を復習する。また地政学的な観点からヨーロッパ伝道の道筋を整理する。 ・伝道活動の背景に距離の近さがあったことを理解するため、パレスチナとローマの距離（約 2,200km）と日本列島の長さ（約 3,200km）を比較し、ヨーロッパと中東の距離感を知る。同時に、シルクロードなどの商路と地図上で比較することで、古代人の国際感覚を味わう。 ○カトリック教会の成り立ちについて ・ローマ帝国の東西分裂からカトリック教会およびローマ教皇体制の成立までをノートにまとめる。	■初期キリスト教会の位置づけを理解し、中世ヨーロッパにいたるキリスト教の影響力を理解している。（知・技） ■クロムブックの地図機能を適切に使用できる。（知・技） ■ヨーロッパと西アジアを地政学的に分析し、距離や交通網の情報からキリスト教の拡大の原因について考えることができる（思・判・表）
第2時（本時）	★ルネサンス成立の歴史的背景を整理する。そして、芸術作品の鑑賞のなかで「美の要素」を議論し、美の変化と社会の変化の相関を理解させる。	
	○中世からルネサンスへの変化はなぜ起こったか。 ・キリスト教が支配的になり、文化や社会に根付いたことを整理する。 ○『アダムとイブ』の比較 ・モンレアーレ大聖堂のモザイク画（中世）とラファエロ・サンツィ（ルネサンス）の作品を比較し、作品の違いを自由に討論する。【ラテラル】 ○「美」に関する考察 ・２つの作品のうち、どちらを美しいと感じるかを思考・表現し、グループ	■ポスト=ルネサンス期におけるキリスト教会の位置づけを理解し、中世ヨーロッパにおけるキリスト教文化の影響力の内容を理解している。〔知・理〕 ■「美」について自分の言葉で表現し、社会の変化と美的観念の変化を結び付けることができる。〔思・判・表〕 ■個人・グループワークで、与えられた問いに真摯に向きあって取り組んでいる。〔主体的〕

第3時	★ルネサンスにおける科学技術の発展と宗教改革を理解し、大航海時代に向かう社会構造の変化を考察させる。そして、ザビエルの日本布教の背景を学習する。	
	○三大発明は後の時代にどのような影響を与えたか？ ・「火薬」「羅針盤」「活版印刷」と「騎士の没落」「グローバル化」「商業の発展」の結び付きを選択し、その因果関係を考える。 ・各グループが発表する。➡宗教改革の説明。 ○なぜザビエルは日本に来たのか。 ・海外布教の背景に宗教改革・科学技術の進展が関係することを整理する。	■三大発明がもたらした科学技術の発展の内容を理解している〔知・理〕 ■商業ギルドの発達の背景にある交易の発展に注目し、経済的実権を握る層が文化の担い手となることに気づくことができる。 ■なぜ海外布教が始まったのかを、大航海時代や宗教改革と関連させながらキリスト教の視点から考察できる。〔思・判・表〕

６　指導に当たって

(1) 作品の特徴や画風にみられる変化の原因を、歴史の変化と結びつけて考える。また、歴史的事実の間にある因果関係を論理的に説明する。【ロジカルシンキング】

(2) 自分と他者の意見を比較して、共通点や相違点を指摘し合う。【クリティカルシンキング】

(3) 作品の鑑賞から、特徴の違いや美の要素を自由に提案し、説明する。【ラテラルシンキング】

７　本時（全３時間中の２時間目）

(1)本時の目標

・ルネサンスの原因を、教科書・資料集を用いてまとめ、理解できる。

・ルネサンス前後の美術作品を鑑賞し、「美の要素」について自分の言葉で表現し、美的観念の変化とルネサンスによる社会の変化との相関を考察できる。

・クロムブックの地図機能やドキュメント機能を学習に活用できる。

(2)本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	・指導上の留意点	■評価規準（評価方法）
導入（5分）	○前回の復習 ・キリスト教がローマに広まった背景などを復習する。 ・キリスト教とその文化が社会に根付き、支配的になっていったことを改めて理解する。	・スライド資料を用いて、簡潔にテンポよくおこなう。 ・中世期のキリスト教絵画を、前振りとして提示しておく	■ポスト＝ルネサンス期におけるキリスト教会の位置づけを理解し、中世ヨーロッパにおけるキリスト教文化の影響力の内容を理解している。〔知・理〕

展開①（10分）	○中世からルネサンスへの変化はなぜ起こったか。【ロジカル】 ・ルネサンスが起こった時代背景について グループで調べ、4つのキーワードを用いてまとめる。 ・まとめた内容について、いくつかのグループが発表する。 ➡十字軍遠征によって、イスラムが保持していた古代の知識・学問が逆輸入されたことや、同時に教会の権威が衰退したことを整理する。	・キーワードは「十字軍」「教会の権威」「古代の知識」「イスラム」の4つ ・ルネサンスの「再生」という意味が、ギリシャ・ローマ時代への復興を意味することに留意する。	■十字軍がもたらした社会構造の変化とギリシャ・ローマ文化の流入の内容を理解している。〔知・理〕 ■ルネサンスの発生について、資料に基づきながら考察し、自分の言葉でまとめることができる。〔〔思・判・表〕〕
展開②（15分）	○キリスト教絵画の比較 （a）『アダムとイブ』 モンレアーレ大聖堂のモザイク画（12世紀）とラファエロ・サンツィ（ルネサンス）の作品 （b）『楽園追放』 マイスター＝ベルトラム（14世紀）とマザッチオ（ルネサンス） ・4作品を中世とルネサンスに分類し、歴史軸の中で比較し、特徴の違いを自由に討論する。【ラテラル】 ・特徴を大別し、変化した要因を既習の知識で考察する。【ロジカル】	・空間の利用、人体表現、豊かな感情表現に注目させたい。 ・遠近法、古代哲学の理性中心主義など、既習の要素との関連を意識させる。	■作品の鑑賞を通して美的要素の変化に気づき、表現技法の進化を指摘できる。〔思・判・表〕 ■古代ギリシャ・ローマの文化の特徴を理解し、議論に活用できる。〔知・理〕 ■グループワークにおいて、与えられた問いに真摯に向きあって取り組んでいる。〔主体的〕
展開③（10分）	○美しさに関する考察 ・2つの作品のうち、どちらを美しいと感じるか、根拠を示して理由を書く。【ロジカル】 ・意見をグループで共有する。【ラテラル】【クリティカル】	・展開②で考えた特徴に基づいて、個人の考えとして精緻化させる。	■作品の鑑賞から、特徴の違いや美の要素を自由に提案し、説明できる。〔思・判・表〕 ■グループワークにおいて、与えられた問いに真摯に向きあって取り組んでいる。〔主体的〕
まとめ（10分）	○まとめ ・表現技法の変化にみられるギリシャ・ローマ文化の特徴（＝ルネサンスの要点）をまとめる。 ・ルネサンスとはどのような時代だったのか、自分の言葉でまとめる。	・ルネサンスという時代性を、歴史と美の観点からまとめさせる。	■自分の言葉でルネサンスの特徴を捉えて、まとめている。〔思・判・表〕

8　参考文献

・池上英洋 他『美術でめぐる世界史年表』　新星出版社、2021

・佐藤晃子『西洋絵画の鑑賞事典』　永岡書店、2020